

(評価)

- ・毎年の自己評価を行うことで自分の保育の振り返りの大切さを感じる。保育の見直しと再確認の機会となる。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、職員会議など集まることを極力減らしてきたことで、全体での共通理解ができないことは主担任会議を効率よくすることで補えてのではないかと。
- ・日々の保育の中で、けがや病気、その他気になることを書き留め、職員間で記録として残し共有できた。その中から担任同士日々の子どもの成長を確かめあったり、疑問に思うことを話し合ったり子ども理解に努めた。
- ・保護者に対して家庭での様子を聞きながら園での様子や課題を伝え一緒に考えていけるようにしている。
- ・新型コロナウイルス感染防止のため昨年は行事を中止することが多かったが、今年度は感染対策に十分な配慮をしながら規模を縮小したりできる範囲で行事を行ってきたことは、保護者の方にとっても子どもの成長の様子が感じ取れたのではないと思う。
- ・新型コロナウイルス感染対策のため、研修はオンライン研修が主となり今までは一人での研修が多かったが、複数で研修が受けられるようになったことはよかった。

(課題・反省)

- ・自園の保育理念の理解を高めていくための勉強会が必要である。そのためには保育指針を読み直したり話し合ったりすることで理念と方針・目標に結び付けた説明をひとり一人ができるようになっていくこと。
- ・幼児教育を行う施設として共有すべき事項の「育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育って欲しい10の姿」は特別なものではなく、日常の保育に反映されていることを保育士一人ひとりが意識して行っていくよう、指導計画の見直しをしたり再確認しながら意識づけしていく。
- ・経験だけにたよった保育も見受けられるので、一人ひとりの発達過程に応じ、発達課題に即した保育が行えるよう自己研鑽していくこと。
- ・近年、気になる子が増えてきていることに対する保育の難しさや、支援の仕方など戸惑ってしまうことが多い中で療育センターや各機関との連携がさらに求められる。
- ・災害に対しいろいろなことを想定して職員間での共通理解を深めていく。